

[日本家族看護学会 国際交流委員会活動報告]

第 13 回国際家族看護学会議の見聞録および国際交流委員会の活動報告

I. 第 13 回国際家族看護学会議の概要

International Family Nursing Association(国際家族看護学会, IFNA)主催の 13th International Family Nursing Conference (13IFNC, 第 13 回国際家族看護学会議)は, スペインのパンプローナで開催された. IFNA の会員は 32 ヶ国 396 名であり, 日本人会員数は 47 名と米国について 2 番目に多い. IFNA 主催の IFNC は 2 年に 1 回開催されている. 日本家族看護学会 (Japanese Association for Research in Family Nursing, JARFN) は, IFNA との協力関係にあり, 13IFNC に協賛している.

13IFNC は, June Horowitz 氏と Jane Lassetter 氏が共同会長となり, “Improving The Art and Science of Family Nursing: Transforming Health for Families” というテーマで, 2017 年 6 月 14 日から 17 日に, University of Navarra のキャンパス内で開催された. パンプローナは, ヘミングウェイの長編小説『日はまた昇る』の舞台になっており, 牛追い祭りで有名な街である. 13IFNC には, 29 カ国から 329 名の参加者があり, 日本からの参加者は 37 名で 2 番目に多かった. 13IFNC は, 3 つの Keynote address, 7 つの Pre-conference workshop, 8 つの Expert lecture, 5 つの Special session, 183 の Podium, そして 176 の Poster presentation で構成された.

II. 学会の内容

学会 1 日目 (2017 年 6 月 14 日) は, 有料 Pre-conference workshop が午前中に 4 つ, 午後には 3 つ開催され, いずれも盛況であった. ワークショップには, Janice M. Bell 氏らの “A Social Media Primer for Family Nursing Scholars” や Kathleen Knafel 氏らの “Novel Practices for Developing and Testing Family-Focused Interventions” など興味深いテーマが多くあった. 日本からは, 法橋尚宏氏 (神戸大学) らが Suzanne Feetham 氏らとともに “Family Functioning and Family Outcomes” というテーマでワークショップを開催し, 10 ヶ国から 24 名の参加者とともに家族機能研究についてのディスカッションを繰り広げた. 夕方からは, オープニングレセプションがあり, 恒例のフラッグ・パレードでは, 日本人参加者も日本の国旗 (国際交流委員会が準備) を振って挨拶をした. また, オープニングでは, 2017 IFNA Awards の授賞式が開催された. 4 つのカテゴリで合計 7 名が受賞し, 日本からは JARFN の理事である荒木暁子氏 (日本看護協会) が “Innovative Contribution to Family Nursing Award”, 本田順子氏 (神戸大学) が “Rising Star in Family Nursing Award” を受賞した.

学会 2 日目 (2017 年 6 月 15 日) は, 開会基調講演では Oregon Health & Science University の Martha Driessnack 氏が “Who Are You From?” というテーマで話をされた. また, 午前と午後ともに研究, 教育, 実践のカテゴリで, それぞれ Expert Presenters による講演が開催され, 家族看護学の最先端に触れることができた. また, 強みを基盤とした看護実践, 異文化比較研究, 方法論のアプローチなど, 多数のテーマ毎に口演発表があった.

学会 3 日目 (2017 年 6 月 16 日) は, University of Navarra の Carolina Montoro-Gurich 氏, Cristina Garcia-Vivar 氏による基調講演 “The Family and Family Nursing in Spain” から始ま

った。家族看護のモデルについて Special Session や健康増進，社会背景での家族，家族の支援ニーズなど多数のテーマ毎に口演発表が実施された。夜には，Otazu ワイナリーでの懇親会が開催され，多数の参加者がコース料理とワインを囲みながら歓談した。

学会最終日（2017年6月17日）は，アセスメントツールや家族看護の国際的視野など多数のテーマ毎に口演発表があり，慢性疾患患者をもつ家族をテーマにスペイン語での口演セッションも開催された。閉会基調講演では，University of Pennsylvania の Janet A. Deatrck 氏が“*We are family: The science of family caregiving*” というテーマで話された。

今回から初めて実施された Poster Award では，6 演題が受賞した。最優秀賞が賀数勝太氏（神戸大学）ら，第2位が中口尚史氏（神戸大学）らの発表であり，IFNA Awards と合わせて 13IFNC では日本人のアワードラッシュとなった。

さらに，学会開催中に IFNA の各委員会（Practice, Research, Education など）の会議も公開で開催され，多数の参加者が IFNA の活動を知る機会となった。IFNA は日本人の会員数が他の国と比較しても多いが，委員会活動や委員の公開会議への参加者が少ないように感じる。日本人会員も積極的に様々な活動に参加し，日本の家族看護を世界に発信しつつ，よりよい家族看護について世界規模で議論できればと思う。

IFNC に長年参加して感じることであるが，IFNC は研究，教育，実践，それぞれについて Expert の講演があったり，発表があったりとバランスがよいように思う。第14回国際家族看護学会議は2019年に北米にて開催予定であるので，日本からも多くの参加者が集まることを期待する。

Ⅲ. 13IFNC での国際交流委員会の活動

国際交流委員会では，13IFNC へのツアーの企画支援を実施し，学会員向けの参加支援を行った。今回の 13IFNC は，スペインのパンプレーナという開催地であったため，飛行機，電車やバスなど交通手段が複雑であり，かつスペイン語圏であることからツアー企画は学会員向けの支援として有意義であった。ツアーの参加者は総勢 19 名であり，13IFNC 参加への支援だけでなく，オプションツアーとして，ナバラ大学病院への医療視察や家族や子どもも含めた“カスタムケア”とよばれる独自のサービスがエキスパートにより提供されている高齢者福祉施設（ARGARAY）への視察などが実施された。

また，学会期間中には JARFN のブースを設置し，JARFN の英語版リーフレット，『家族看護学研究』の題目一覧，Call for paper や投稿規定の英語版，国際交流委員会の過去の国際交流活動についての資料などを配布した（左の写真参照）。多数の参加者が『家族看護学研究』への投稿に興味を示した。

